

イシガレイ種苗生産における有眼側白化の改善

福島県水産種苗研究所
平成18、19年度福島県水産種苗研究所事業
報告書

1 部門名

水産業一種苗研究(基礎)一種苗生産、イシガレイ
分類コード 19-07-19420000

2 担当者

實松敦之・泉茂彦

3 要旨

イシガレイの人工種苗においては有眼側白化個体が高い割合で出現する。そのため、様々な防除の手法が検討されたが、有効な手法は開発されなかった。

一方、カレイ目のヒラメでは白化個体の出現は餌料の要因が大きく、変態初期における餌料の質の違いに起因し、白化の防除にはDHAを含むリン脂質、脂溶性ビタミンが極めて有効であると言われている。

また、生物餌料にDHAなどの栄養を強化する製品が市販され、種苗生産の現場で使われており、ヒラメでは、白化は問題にならない程に改善されている。

そこで、栄養強化剤を用いた生物餌料で飼育したイシガレイの白化個体の出現率を過去の試験結果と比較した。

(1)平成17年度の色素正常個体の出現率は64.3%であった。

(2)平成18年度の色素正常個体の出現率は77.3%であった。

(3)昭和58～62年度の試験における色素正常個体の出現率は0～44.1%であり、全試験の平均値は13.2%であった。

(4)以上のように、栄養強化剤を用いたワムシ、アルテミアを給餌したところ、色素正常個体の出現率が大幅に高まった。

4 その他の資料等